

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、現状に合った理念作りを視野に入れ、ホーム会議にて話し合いの場を持った。職員一人ひとりが意見を出し合った結果、現在のホーム理念の継続が再確認された。出勤時に理念を唱和して共有・実践に向けて取り組んでいる。	理念は見やすい所に掲示し共有している。ホーム会議で各職員が大切にしたいことを話し合い、「その人らしさを大切に、笑顔でより添い、待つ介護」という現在の理念を継続することにした。本人の身体機能に応じて手を差し伸べるなど、待つ介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さいの神、小学生や他事業所との交流会等の地域行事に積極的に参加している。また回覧板を回したり、散歩の時に立ち話をす等、近所の方とのふれ合いを大切にしている。	さいの神や神社清掃など地域行事に参加している。コミュニティセンターの催しに参加して小学生など地域の方との交流を楽しんでいる。夏祭りや文化祭を開催する際には回覧板で案内を回し、地域の方にホームに来てもらえるよう呼びかけている。また日頃から散歩の時に近所の方と挨拶を交わしたり、琴演奏などのボランティアの受け入れるなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会や文化祭等の催しと合わせて、地域の方々に向けて認知症講座や悩み相談の案内を出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で報告・話し合い・意見集約を行っており、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、利用者・家族・市職員・民生委員・コミュニティセンター職員・地域包括職員などが参加して開催している。状況報告や意見交換を行ない、地域の方にホームでの取り組みを理解してもらえるよう努めている。地域との交流を支援してもらったり、介護に関するアドバイスをもらうなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員を2ヶ月に1回受け入れている。また、市の集団指導やグループホームの意見交換会にも出席し協力関係を築いている。	運営推進会議で市の担当者にホームでの取り組みを伝えている。また2ヶ月に1回市の介護相談員を受け入れている。市主催の研修や集団指導に参加したり、川西地区のグループホーム連絡会に市の担当者が出席し意見交換するなど、情報を共有し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に適時勉強会を行い身体拘束について学び、身体拘束をしないケアを行っている。また、日々のケアの中でも利用者の行動を抑制しないような対応を心掛けている。	定期的に研修を行ない学んでいる。職員の言葉がけが利用者の抑制感を招いていないか日々のケアの中で点検し、気づいたことがあれば話し合い防止に努めている。やむを得ない場合を除き玄関の施錠はせず、外出しそうな様子があれば止めるのではなく、本人の思いに寄り添い安心できるような対応をしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等についての研修を行い知識を学び虐待防止に取り組み、入浴時に身体チェックをして虐待が見過ごされる事が無いよう注意している。	研修で学び、言葉がけや対応に注意している。アザなどが無い皮膚状態を観察し、ケアの際にも本人に負担をかけないよう優しく触れることを心がけている。管理者はストレスマネジメントの研修を受講しており、職員の疲れている様子などがあれば話を聞いてストレスが軽減できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要性のある方へは提案、情報提供を行っている。職員へはホーム会議にて情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において十分な説明を行い理解、納得して頂いている。疑問点についてもその都度説明し、理解を得ている。また改定時には家族会にて説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明示し、意見箱の設置や家族会、顧客満足度調査を実施し、意見を表せる機会を設け運営に反映させている。	利用者の意見は日々の関わりの中で聞いている。家族には面会時や電話で要望を聞くようにしている。また年1回の法人の顧客満足度調査や家族会など、意見を聞く機会を設け、もらった意見は全職員で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやホーム会議、各委員会で意見の提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。業務時間の見直しを実施した例がある。	毎日の申し送りやユニットカンファレンス・ホーム会議など意見を聞く機会を設けている。また定期的な個人面談の他、職員から申し入れがあればいつでも面談し意見を聞いている。ケアに関する意見や業務改善につながる提案があれば運営に反映している。育休開けなど各職員の都合も聞いて働きやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各拠点において管理者が独自性を持ち、職員個々の勤務状況を把握、個別面談を行い、職員が自信を持ち、安心して働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の新人研修・ホーム内での研修・支店での研修等、必要な研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の意見交換会及び同業者研修会への参加や、川西地域のグループホームの親睦会での交流を通して意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学等で本人の話を傾聴し、思いを受け止め、安心を確保するための関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学等で家族の話を傾聴し、思いを受け止め、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や事前訪問の時に本当に必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に喜び、楽しみを作り出し、共に楽しめる雰囲気作りに努めている。また家事等、過去の経験から色々教えて頂き共に生活する者同士の関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に居室担当者が季節毎の行事や外出等のお誘いご利用者のホームでの様子を手紙で家族に郵送している。面会時や家では見られないご利用者の表情を見て喜ばれる家族もおられ、入居が長くなると疎遠になりがちだが、良い関係が築けるよう支援している。	2ヶ月に1回、居室担当職員が利用者の様子を手紙に書いて郵送したり、状態変化があれば電話で報告するなど家族と情報を共有している。また家族の思いを傾聴して信頼関係が築けるよう努めている。行事や面会などで来られた時には本人とゆっくり過ごしてもらったり、時には職員が会話の橋渡しをすることで絆が継続できるよう支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰宅や、親族や知人に会いに行く等、ご家族の協力を得て外出されている。知人が来られる事もあるが、ゆっくり過ごしてもらえるように支援している。	馴染みの人や場所についてセンター方式を活用し把握している。知人が来られた時には居室でゆっくり過ごしてもらったり、電話や年賀状のやり取りなど関係が継続できるよう支援している。馴染みの場所へは家族と一緒に出かけたり、独居だった方の一時帰宅なども関係者の協力を得て行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をしっかり把握し、時には職員が間に入り声掛けを行いながら、利用者同士が関わり合い良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的に関わりを必要とする方がいれば、必要に応じ相談し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れており、居室担当者を中心に日頃の言動や会話から希望や意向を把握し定期的書き込み、状況の変化があれば、その人らしい生活に結び付けられるように検討し取り組んでいる。	センター方式を活用しながら、日々の関わりの中で把握するよう努めている。お茶の時間にゆっくり話を聞いたり、特に居室にいる時や入浴時など1対1の場面を好機と捉え、じっくりと話を聴き思いや希望を引き出している。意思の疎通が難しい方は、家族など関係者と相談しながら本人の立場に立って検討している。把握した情報は記録して周知し、また介護計画に反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人、ケアマネージャー等関係者から情報収集し、センター方式できめ細かく把握に努め、さらにシートを埋めていくことで、これまでの情報について継続して把握することに努め、その人らしさを大切に自分らしく暮らせるよう支援している。	入居前の事前面談で自宅や利用中の施設を訪問して日々の暮らし方や生活環境を確認するとともに、センター方式を活用して本人・家族から詳細に聞き取りを行い、把握している。以前利用していたサービス利用の経過等も関係者から情報収集している。入居後も把握に努め、知り得たことはセンター方式に追記し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの現状を把握し、介護記録やセンター方式を利用し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、もしくは必要時、その都度モニタリングを行い、ユニット会議でカンファレンスし、問題やリスクがある場合は、ご家族と相談し介護計画書の変更、作成を行っている。	基本的には3ヶ月毎、状態の安定している方は6ヶ月毎、または必要に応じて随時に介護計画の見直しを行っている。計画作成担当者を中心に職員と共にモニタリング・カンファレンスを行い、課題等を検討しながら、本人・家族から日頃の関わりの中で把握した意見要望等を反映させて介護計画を作成している。また、計画に沿って日常生活支援シートを作成し、統一したケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や定期的に行っているカンファレンスで情報を共有しながら実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々一人ひとりの身体、精神状態に合わせたケアを提供している。ご家族の希望に添い柔軟な支援を行えるよう各関連機関との関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしに関わる民生委員、防災、ボランティア等と協力し、安全で豊かな暮らしを送って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に合わせて適切な医療を受けられるようにご家族と相談し、生活の様子の記録やバイタルチェック表にて情報提供を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行での受診の際には必要な情報を文書にして渡したり、必要時には職員も付き添い状態や日頃の様子を伝えている。受診結果に関する情報は記録し、共有している。かかりつけ医とは話し合いや情報交換等を通じて関係を築いている。また、週2回看護師による健康管理が行われており、その際に専門科受診についてのアドバイス等も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成23年12月に医療連携体制加算を取得。訪問看護ステーションさんわとの連携を行い、毎週看護師が訪問しご利用者の体調管理の支援・アドバイスを受けている。適切な受診・看護を受けられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ご家族との情報の共有、相談を行い、早期に安心して退院できるよう支援している。また、ケースワーカーとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、吸引・胃ろう・点滴等で常時医療行為を必要とする場合等、重度化し医療依存度が高くなった場合は、対応が難しくなってくることを説明している。重度化した場合に備え早い段階から今後の対応を話し合っている。	重度化した場合の指針があり、入居の際にホームの方針や対応する範囲等を説明し、意向等を伺いながら話し合いを行ない、同意を得ている。また、入居後も状態変化に応じて家族・かかりつけ医・看護師など関係者と話し合い、本人にとってより適した施設等の選択肢も示しながら方針を決め、家族の不安軽減に努めながら支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て心肺蘇生法の講習を受けている。緊急時対応の研修を行い、個人別の緊急連絡先・既往歴・薬の情報等をまとめたファイルを用意し、緊急時に備えている。	毎年、消防署の協力による救急救命講習を受講している。また、リスクマネジメント委員会が設置されており、同委員が中心となり、緊急時対応マニュアルを基に研修会・訓練を定期的実施し、応急手当等の実践力を身につけている。また、医師や毎週来所する看護師に相談し、利用者の既往症や現在の症状を踏まえた観察ポイントやその人に合った対処方法の指導を受けると共に介護計画に記載して共有し、急変時等に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災防災避難訓練を実施している。(うち1回は消防署立ち合い) 災害セットや水・食料等を備蓄している。	年2回、昼夜の火災を想定した避難誘導訓練を行なっている。個人別の避難経路や職員の分担など、具体的な避難計画が策定されている。地震や風水害のマニュアルも揭示し、どのような行動をとるべきか職員間で話し合っている。地域との協力体制については、周辺の企業や民家に災害時の協力依頼がしてあるほか、訓練への参加を呼び掛け、協力関係の構築に努めている。	地震や水害等、自然災害の対応マニュアルは整備され話し合いも行われているが、実際の訓練が行われていない。自然災害時は火災時とは違う対応が必要となると想定されるため、定期的な訓練を実施し自然災害にも備えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに対し、尊厳を大切にしたい言葉かけを行っている。記録物はご利用者の目に触れないように気を付け、プライバシーを守っている。	入社時研修や定期的な研修で接遇や認知症ケアについて学び適切な声掛けや対応を身に付けている。親しくなっても目上の方であることを念頭に丁寧な言葉かけを心がけている。認知症についての理解を深めた上で対応することや、折に触れ感謝の言葉を伝えたり、教えてもらうなどその方を尊敬し認めることが人格の尊重に繋がると考え、実践している。記録類は入居者の目に触れないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を把握し、納得しながら暮らせるように支援している。レクリエーションや余暇活動の時間等、希望を取り入れ自由に過ごして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、排泄等、一人ひとりのペースを大切に、その日の希望に沿って「その人らしく」過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や着替えの時に着る服を選んで頂いたり、移動美容室で好きな髪型にして頂いたり等、本人の意思を尊重した支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き、それを参考にして献立を考え調理している。また、テーブル拭きや食器拭きをその時の気分や体調に合わせて手伝って頂いている。歩行困難な方には、座りながらも出来るお膳拭きを手伝ってもらっている。	利用者の好みや畑で収穫した旬の野菜を取り入れながら献立をたて、ホーム内で調理し出来立てのおいしい食事を提供している。野菜の下拵えや盛り付け、後片付けなど、その人の力に合わせた作業を一緒に行ない、持てる力を発揮できるように支援している。寿司など好みの出前を月に1回取ったり、テラスでのバーベキュー、ホットケーキパーティーなどのおやつ作りも随時取り入れ、普段と違う食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通してバランスの良い献立になるよう努めている。水分量は介護記録を見ながら一人ひとりの摂取量を把握し、夏・冬は多めに確保できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔状態に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるようにトイレ誘導や促しを行っている。	トイレでの排泄を大切にしており、排泄パターンやしぐさなどのサインを把握し適切に誘導し、出来る限りトイレで排泄してもらうよう支援している。パットやリハバンの利用は必要性を十分に検討し、必要時はその方に合わせた利用形態を検討した上で使用するようになっている。排泄に関する機能も一人ひとり把握し、個別の日常生活シートに介助範囲・方法を記載し、その人に適した介助を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態をチェックし、個々に応じた水分・食事を摂取している。レクリエーションに体操を取り入れ、なるべく身体を動かして頂けるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングを合わせ楽しく会話をしながら入浴の気持ち良さ、楽しさを感じて頂けるよう、個々に沿った支援をしている。また入浴剤を使用し、温泉気分を出して楽しめる工夫をしている。	週に2～3回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴することが可能となっている。利用者の希望や生活習慣に合わせて、午前・午後の好きな時間帯に入浴できるよう対応している。湯温や入浴時間も健康状態に配慮しながら希望に添うよう支援している。風呂の嫌いな方には、無理強いせず、声の掛け方などで工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状態の把握に努め、季節や体調に合わせて、居室の湿度や寝具を調節して快適な休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人別にファイルし、理解に努めている。特に下剤での排便コントロールが必要な方は適切な排便を促すために下剤量の調整に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みによって手作業や菜園・草取り等の趣味的活動の支援を行っている。また、日常的に掃除・食器拭き・洗濯たみ等を一緒に行い、役割を楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物に出掛けられるよう努めている。また、普段行けないような場所も本人の希望を把握し、ご家族の協力を得て出掛けられるよう支援している。	日頃から天気が良ければ周辺を散歩したり、家庭菜園での作業、ウッドデッキにテーブルを出してお茶を飲むなど戸外で過ごすことを大切に支援している。普段行けないような場所も市の福祉バスやジャンボタクシーを手配し、千秋が原ふるさとの森・ハイブ長岡・歴史博物館・丘陵公園のバラ園などに出かけている。買い物など個別の外出には家族の協力を得て出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は会社ルールとして控えていたが、希望があれば本人、家族と相談の上、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は全体的に茶色を基調として家庭的な雰囲気を保ち、リビングには手作りの作品や季節の花や物を飾っている。和室にコタツを置いたり、廊下に椅子を設置する等、思い思いに居心地良く過ごせる空間作りをしている。	居間・食堂にはテーブル・椅子のほかにも畳スペースやソファが設置されており、利用者が好きな場所で過ごせるよう配慮されている。季節感のある装飾物や利用者作品も展示されており、温かい雰囲気づくりがなされている。清掃・消毒は毎日おこなわれ清潔保持されており、光や室温の調節など快適に過ごせるよう配慮している。普段の座席は利用者同士の関係性にも配慮して決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士、好きな場所へ移動したり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、使い慣れた家具やご家族の写真を置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人・家族と相談し、馴染みの家具や装飾品など自由に持参してもらい、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。また、利用者の作品や母の日に職員がプレゼントした写真などを展示し、温かい雰囲気をかもし出すよう工夫している。室内は掃除が行き届き、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「出来ること」「分かること」を把握し、安全に無理の無いよう支援している。建物内はエレベーターや手摺り等、バリアフリー構造になっている。また、名札等で居室やトイレの場所を認識しやすくする等、工夫して自立支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				